

台湾新聞

TAIWAN NEWS ◆ 2011年9月号 月刊 東京発行 NO.155

台湾新聞はtwitterを始めました
@taiwannp をtweet!

台湾新聞 検索

Web: <http://taiwannews.jp/>
Blog: <http://blog.taiwannews.jp/>
E-Mail: info@taiwannews.jp

発行先: (有) 台湾新聞社 〒171-0021 東京都豊島区西池袋3-31-5 TEL:03-3987-6379 FAX:03-3590-5798 <http://www.taiwannews.jp> e-mail:info@taiwannews.jp
©郵便振替: 00140-4-594168 ©みずほ銀行 池袋西口支店 普通1093569 口座名: 有限会社台湾新聞社 定価¥300円(税込) 定期購読(12回) ¥3,000円(税込)

日本から台湾への投資促進

新日本有限責任監査法人の主催で、2011年8月3日、東京で「(副題)〜アジアとともに、日本企業のさらなる成長を〜(主題)台湾市場と投資セミナー」が開催され、約170名の参加があった。

▶「成長著しいアジア」の要・台湾

セミナープログラムの冒頭には、新日本有限責任監査法人・常務理事 / 監査業務本部長の渡邊秀俊氏が挨拶。最近ではアジアへの投資、特に台湾への投資が増えていることや、台湾が親日の国であること、また、特にECFA(台湾と大陸のあいだのFTA に至る枠組みを決めた協定 - Economic Cooperation Framework Agreement) 以降増加しており、この地域での投資が活発化していることを強調した。

▶「日本と台湾の緊密さ」がキーになる —余経済組長

次に挨拶に立ったのは、台湾側、台北駐日経済文化代表処の余吉政経済組長。余組長はこの100年間、日本と台湾は特別な関係があったこと、そのために台湾と日本との関係は現在でも緊密であることが語られた。

余組長は続けて、特に日台外交の日本側の窓口である財団法人交流協会が発表した2009年の統計を引用し、台湾人で日本に親しみがある、と答えた人は52%にのぼり、世界で一番親しみがある、という結果を語った。また、2011年、台北駐日経済文化代表処(台湾側の日本での駐在事務所)が外部企



台北駐日経済文化代表処 余吉政経済組長

業に委託した日本での世論調査では、日本人の67%が台湾に好感を持っており、91%が日本と台湾の関係は良好であると考えていることなども語った。また、経済面で日本から台湾への投資件数は、台湾側からは世界一で6200件(2010年までの累計)。投資額1位は米国だが、日本は2位であることなども語った。一例として日本のコンビニエン

ストアで有名なファミリーマートは、中国進出のテストケースとして台湾への投資を考えた。台湾市場での成功をもちに、現在台湾人スタッフが

▶「Made in China」ではなく「Made for China」 —TAITRA陳所長

余経済組長の後は、台湾貿易センター(TAITRA - 日本のJETROにあたる)東京事務所長・陳英順氏の講演。陳氏はより深く「台湾の最近の経済動向」を語った。特に台湾は小さな国でありながらIT分野では非常に大きなシェアを世界で持つ製品を、数多く製造していること、そのほとんどが表に出ない ODM(企画・設計から製造までを請け負う)や OEM(製造を請け負う)であるが、最近では台湾独自のブランドも多く出てきていることなどが語られた。また、2010年6月末にECFAが締結されてから、特に兩岸の相互投資などが大きな成果をあげつつあるなかで、最近では特に台湾でも「Made in China」ではなく「Made for China」が貿易の主流になってきているという。そして、台湾系企業は中国マーケットへの進出のノウハウを多く持っているため、中国大陸に進出しやすいとのこと。これら陳所長

台湾から中国への進出を行っていることを語った。このような「巨大な中国市場を目指すために台湾市場を試金石として使う」というやり方は既に多くの前例があり、今後も増えるであろうとのことだ。

の話からは、現在の台湾企業では「中国市場をいかに開拓するか」が大きなテーマとなっていることが伺える。サービス業などでも、日本の技術を使い、決定が早く中国大陸市場をよく知る台湾企業とタイアップし、中国に製品を売る、という流れが出来上がっている見方もある。

また、アジアでの資金調達力を見ると、日本よりも台湾、韓国が大きくなってきており、2009年の上場企業数を見るとこの傾向がより鮮明だ。特に最近ではシンガポール企業が投資回転率の高い(2.5倍)台湾で上場するケースが増えているという。また、そればかりではなく、日本で従業員が数人しかいないハイテク企業が台湾で上場する、などのケースもあるという。さらに、最近の日本の商社は台湾への投資を強めており、日本から見ると台湾は「投資の国」という位置付けになりつつあるとも言えるとのこと。

最後に、TAITRAが多くの投資サービスを日本企業に対して提供していることなどの紹介も忘れなかった。

2面へ続く→

TOPIC	
日本語版	
●チャイナエアライン新日本支社長は「IT出身」で「日本料理が大好き」	2面
●呂秀蓮前副總統「脱原発」の一日	3面
中国語版	
●世界台湾聯合總會率會員訪東北	1面
●布袋戲師父擔任臺東日	7面

台湾新聞社より中華民國101年新年広告ご出稿のお願い

東日本大震災では台湾から200億円を超える一般の方々からのご支援を中心とした義援金を頂くだけではなく、多くの救援物資、さらに多くの支援ボランティアなど、台湾と日本の深い絆を感じさせずにはおかない、様々なご支援をいただきました。

今回、台湾新聞社では、この感謝の意味もこめ、来年1月1日に101年めの新年を迎える中華民國(台湾)へのお祝いの企画広告を、在日の台湾の方々や日本の友人に向かって、普段から台湾新聞をご支援いただいている方々にお願ひすることとなりました。詳細は追って紙面にてお知らせいたします。

中華民國100年からの発展を願う台湾と、台湾新聞ともども、よろしくお願ひ申し上げます。

ご出稿についてはこちらまでご連絡ください。
有限会社 台湾新聞社
東京都豊島区西池袋3-31-5-8F
TEL:03-3987-6379
FAX:03-3590-5798

台湾物産館

台湾飲茶シリーズ

台湾物産館 笹塚店 〒151-0073 東京都渋谷区笹塚 2-14-15 ヴェルト笹塚ツインビル1F TEL&FAX: 03-5304-7801
台湾物産館 お台場店 〒135-0091 東京都港区台場 2-2-1 ザ・タワーズ台場 アネックスビル1F TEL: 03-3527-8861 FAX: 03-3527-8862
台湾物産館本部 (池栄青果株式会社) 〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-15-7 池栄ビル2F TEL:03-3988-3321 FAX:03-3985-8173
URL: <http://www.taiwan-bussankan.com/index.html> Yahoo! 3pay URL: <http://store.yahoo.co.jp/taiwanbussankan>

宅配利用で遠くからでも利用OK

パソコン処分したいんだけど・・・ どうすればいいの？

【依頼者にお得情報】
デスクトップSET
ノートPC (液晶モニター不可)
液晶モニター (液晶モニター不可)
↓
QUORC 図書カード
どちらかプレゼント
(事前のご連絡をお願いします)

【その他高価買取します】
非鉄・スクラップ・廃プラ
エアコン・銅線・給湯器、他

なんでもご相談下さい

http://www.shinrikogyo.co.jp 信利工業株式会社 (日本関西商會 会長: 池平美香) 〒593-8312 大阪府堺市西区草部 2009番地 tel 072-260-3688 fax 072-260-3677

チャイナエアラインの正規割引運賃

チャイナエアラインでは、正規航空券ならではの特典が盛りだくさんのお得な正規割引運賃をご用意しております。

正規割引運賃なら、お得! 便利!

- 優先的に予約購入
- 出発日を逃せばもっとお得
- 事前予約購入でさらにお得
- 事前座席指定で快適な空の旅
- さらにマイルも加算

たいわんごい

中国航空 CHINA AIRLINES www.china-airlines.co.jp

WEB限定運賃 10月以降出発 販売開始しました!!

就航20周年キャンペーン実施中 東京ー台北 23,000円~

ますます便利に! お気軽に各地へ!

●オンラインチェックイン 日本/札幌・仙台・東京(成田)・羽田 名古屋・小松・大阪・福岡発
●機内食 事前指定 一台湾/台北・北米・パノコク・スラブヤ行・グアム・マカオ
●先払い 事前注文 EVA AIR 本全て台製国産

●ご予約・お問い合わせ
札幌 0123-452511 仙台 022-362-9411
東京 03-5798-8811 名古屋 052-885-6011
小松 0761-22-8011 大阪 06-6377-3011
福岡 092-416-6811
※営業時間: 9:30~18:00(12:00~13:00を除く)年中無休

www.evaair.com

▶1面からの続き

▶投資回転率が高い台湾

—群益証券・李氏

次に台湾の群益証券の李名林氏が、日本企業の台湾への投資の動向について語った。特に台湾ではIT産業が非常に伸びていること、台湾の投資家は7割以上が個人投資家であること(そのため投資回転率が大変に高いこと)、そのため、日本のIT系の中小企業は台湾での上場に適していることなどが語られた。李氏によれば、日本の中小企業が台湾で上場し、台湾の人材を活用して中国市場を目指す、という基本的なシナリオが最適である、との持論を示した。その後、李氏は台湾での各種企業、業態の会社の上場の詳細について語った。配布資料を見ると、特に上場コストや期間などの点で、台湾での上場がはるかに安く簡単であることが分かる。このほ



台湾貿易センター 東京事務所所長の李名林氏

か、李氏は台湾での上場の詳細やTDR(第二上場)についてその概要を語った。

▶個人株主を大切に台湾

次に、日本企業が台湾での上場を行う場合の法的な問題について、理律法律事務所の李文傑氏が語った。ECFAが成立したことによって、日本企業でも、台湾で資金調達をして巨大な中国マーケットを目指すケースも多いと思われ、日本企業でも台湾内での法律や税務についての知識が不可欠であることを語った。特に台湾で上場した企業は、個人投資家が多い台湾の市場に鑑み、株主に

—理律法律事務所・李氏

対する配当についても明確な基準を示す必要がある、会社が自己都合で勝手に配当額や配当の方法を決めることはできないことなど、いくつかのケースを例に語った。李氏の話からは、特に台湾の市場では個人投資家を守るための多くの法律が整っているだけでなく、少数株主の権利を守るための多くの制度が整っていることを伺わせた。最後に、日本企業が中国市場への進出を行うにあたり、台湾企業をパートナーとすることのメリットなどが語られた。

今回のセミナーのベースには、簡単に言えば「日本市場だけではこれから日本企業はだめになる」という共通認識がある。日本の不況と、それを加速した東日本大震災は、これまで日本国内で閉じていた多くの日本企業を海外、特に「成長著しいアジア市場」に向かって開眼するきっかけを作った。しかし、現状ではまだアジア市場に向かって日本企業が大きく羽ばたく下地は、企業マインドとしてもインフラとしても整っていないのが現状だ。しかしながら、いま元気の日本企業はより安全で高い利益を持つ投資先を求め日本国内から海外に出る意欲を示している。そうは言うものの、「成長著しい」とは言っても中国の市場での成

功例は多くない、ということも囁かれている。そのため、今後はどの国よりも大陸中国をより知る「資本主義世界と大陸中国マーケットのゲートウェイ」である「台湾」への日本からの投資が日本再生のキーとなる、ということ、セミナー参加者全員が既に持つ問題意識だろう。その参加者に向けて、今回のセミナーは、日本から台湾へのより安全で成長率の高い投資への、法律、税、などの具体的な項目について詳細な説明がされたセミナーだったと言える。特に台湾への投資を考えている日本企業の財務関係者には有益であったと言えるだろう。

原発事故処理はいかにして遅れたか 2011年度 台湾科学技術協会・夏季講演懇談会



小佐古博士をかこんで

今回の講演会では、最初に台湾科学技術協会の理事長・林敬三博士(名古屋産業大学教授)が挨拶。続いて、来賓の台北駐日経済文化代表処の科技組・組長の蔡明達氏が祝辞を述べた。その後、東京大学大学院の小佐古敏荘(こさことしろう)教授を、台湾科学技術協会の監事・黄瑞輝博士(中華経済研究院・東京事務所長)が紹介し、その後、小佐古教授が講演した。

小佐古教授は、東日本大震災で大きな被害を被り、「Fukushima」の名前を世界的にすることになった「東京電力・福島第一原子力発電所」の事故について、事故直後に内閣官房参与として現在の民主党政権の中核で、事態の取捨のために働いていた。しかしながら、4月29日、衆議院第一議員会館で涙を流しつつ参加の辞意を表明する記者会見を行い、世間を驚かせた、「ときの人」一人だ。小佐古教授は、今回の福島第一原発事故とそのために外部に大量に漏れた放射性物質の今までのこと、専門家の立場から正直な意見を述べ、今回の「非常時」に現政府がこれまでやってきたこと、やってはいけないこと、やるべきことを、事実に基づいて忌憚なく述べた。特に、現在の日本政府の官僚組織の問題点や、それによっていかに多くの人が抱えなくともよいはずの問題を抱えたか、について、まさに政権中核と現場にいた自身の体験談をもとに語った。しかしながら、小佐

古氏は大きな声でなにかや誰かを責める、ということではなく、むしろ落ち着いた口調で、大切なことと、そうではないことを分け、淡々と語ったが、なによりも「これからのなにが起る可能性があるか」「これからのなにをすべきか」ということに明確な答えを用意していることが印象的だった。

たとえば、福島第一原発が津波に被災した直後、小佐古氏が一番心配したのはそのときにまだ世間の耳目を集めていなかった「4号機」であったという。つまり、停止している4号機では、使用済み燃料棒の冷却プールのみが水を循環させて動いているが、その使用済み燃料棒を入れたプールに水が循環しなくなると水が干上がり、使用済み燃料棒が溶け出し、これも大惨事の引き金になる可能性がある、と指摘した。そして、小佐古氏の話の通りの「大惨事」を招いたのは記憶に新しい。今回の福島第一原発の事故は、まず津波による被害で原発が停止するだけではなく、原発の維持に必要なさまざまな設備も止まった。この時点で、水素爆発の可能性、その場合の放射性物質の原発からの空気、水、土壌への広がり方などを先手を打って予測し、その結果に従って迅速に対応をする必要があったが、それらの小佐古氏が提案した対策はことごとく「住民パニックを起こさせない」などの大義名分の下に、対応が遅れるか、あるいはなされなかった、という。

小佐古氏は日本の最先端技術を駆使し、総額で280億円もの巨費を投じた放射性物質の拡散予測システムであるSPEEDI、ERSSなどは稼働しており、そのデータは時々刻々と取られていたが、政府がその自らの組織の防衛のためにその発表を止めたい、ということなどをこの講演で語った。小佐古氏の講演の後は、震災ボランティアとして活躍中の藤岡正樹氏が講演。特に福島の実況などについて語った。藤岡氏は、援助物資

▶日本企業の再生は台湾市場で—垣花氏

次は「日本のベンチャー企業のアジア・台湾市場への挑戦と魅力」と題して日本ベンチャーキャピタル協会(JVCA)オブザーバーであり、三菱UFJキャピタル株式会社の常務取締役・垣花直樹氏が語った。垣花氏は、従来から世界経済がアジアを中心にまわり始めていて、東日本大震災によってその傾向が加速していることを語った。その際、日本企業にとって必要なことは、サプライチェーンの見直し、原発問題によってエネルギーのシフトが起き始めていることを認識しておくこと、観光立国や農水分野は日本でもかなり厳しい産業となってきたことへの認識など、世界の流れの中の日本の位置付けの大きな変化に対する認識と、その認識に沿った新しい戦略を立てることであると話す。また、震災の復興のための財源問題も大きい、と語った。また、これらの厳しい問題を抱えた日本の企業は、下向きになって「閉居」することなく、さらなる大きな目標に向かって世界を相手に前向きな対処が必要であることが語られた。また、この現状から日本企業はさらに台湾との連携を深め、「成長著しい」アジア市場への足がかりを台湾でつかむべきこと、など、将来に向かっての日本の企業の希望の1つが台湾にあることを語った。垣花氏によれば、この観点から見ると、日本企業にとっての台湾は「中国・アジア市場へのゲートウェイ」と見ることができるといふ。特に日本のベンチャー企業にとっての台湾市場は、(1)中国市場への試金石、(2)中国市場への足がかり、(3)台湾と

中国の経済連携を活かす、(4)資金調達先、と考えられることなどが語られた。例としてエルピーゲメモリ、ケイ・エス・ティ・ワールドなどが挙げられた。いずれも日本企業ではあるものの、台湾の資金で動き始めた大きな企業だ。ただ、日本企業の海外上場では法律の違いをはじめ、さまざまな問題が現場で起きていること、日本でも上場できるけれども、アジア市場での上場のほうがより望ましい、という企業こそが海外(台湾)での上場がより良い結果を得られる。かつてのように「日本で上場できないから海外で上場する」という考え方は既に通用しないことだ。また、垣花氏は一例としてタッチパネル製造の富士通コンポーネント、岩塚製菓と旺旺集団の資本・業務提携についても語った。特に岩塚製菓の旺旺集団への投資が非常に成功していることなどが語られた。また、高度な知財を持った医療系機器のベンチャー企業が中国に進出するにあたり、台湾の研究機関などとの提携を模索中であることを語った(進行中の案件であるため企業名は伏せられていた)。特に知財については两岸のECFAに伴う知財協定の足踏みなどもあり、まだ実現にはかなり時間がかかること、また、ECFAを最大限に生かした事例として、高度な知財を持った日本の会社と、素早い対応と中国大陸をよく知る台湾企業が提携することにより、台湾から中国大陸への進出を目指している企業の例が語られた。いずれの事例でも、台湾企業の「スピー

チャイナエアライン新日本支社長は「IT出身」で「日本料理が大好き」!

7月15日に東京に赴任し、チャイナエアラインの日本支社長となった鍾明志氏は、もともとコンピュータプログラマーで、1983年にチャイナエアラインに入社したときは本社の整備本部会計室にいたものの、その翌年、通信業務本部のプログラマーとして活躍した。使用言語はコンピュータがIBMのメインフレームだったため、自然とPL/Iだったという。さらに鍾支社長は同部署で2002年まで在籍し、システムアナリスト、本部長補佐を経験し、管理職の階段を登った。

さらに、その後、ベナン支店の支社長を経て再度台湾の本社の通信事業本部に戻り本部長となり、2011年の7月に日本支社長となった。航空会社にとって、データ通信は今や事業の要の1つであるといっている。予約、航空券の発券、貨物の受け入れなど、多くの場面でコンピュータと通信がなければ、仕事そのものが成り立たない。鍾氏はチャイナエアラインのその重要な部門を統括していた。今回日本支店社長として赴任するにあたって、「日本の食べものは大丈夫ですか?」とお聞きすると「日本の料理は大好きです。ベナンにいた頃もしょっちゅう日本料理を食べに行き、台湾にいるときも週に一回は日本料理を食べに行きます」とのこと。

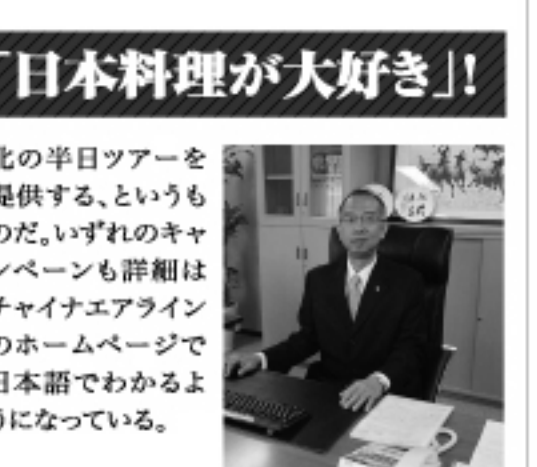
り組みも、台湾観光協会と共同で行い、成果を上げている。既に震災直後の4月から5月のあいだに、「日本への旅行は安全です」というキャンペーンを台湾で行い、台湾のメディアはじめ、187と言ふ多くのメディアでこの取り組みが報道されている。そのため、日本の観光庁から、表彰されている(本紙一部掲載)。また、7月には「台湾希望の旅」に参加。東日本大震災の被災者千人を2週間台湾に無償で招待する、という企画だが、チャイナエアラインはここでも250人分の航空券を提供した。

▶中華民国建国100年への取り組み

また、チャイナエアラインは現在台湾観光協会とともに、6月11日から12月11日まで「100年夫婦帰郷」キャンペーンを行っており、夫婦あわせて100歳以上の夫婦に、台湾旅行にあたってさまざまな特典が用意されている。また、「サーフボードキャンペーン」は、サーフボードの持ち込みが無料となるキャンペーンだ。「よってこ台湾」キャンペーンは、台湾をトランジットとするフライトにおいて、台

北の半日ツアーを提供する、というものです。いずれのキャンペーンも詳細はチャイナエアラインのホームページで日本語でわかるようになっている。

北の半日ツアーを提供する、というものです。いずれのキャンペーンも詳細はチャイナエアラインのホームページで日本語でわかるようになっている。



チャイナエアライン新日本支社長 鍾明志氏

▶2011年旅行博に出展

9月29日から4日間、東京国際展示場で「旅行博2011」が開催される。チャイナエアラインも台湾観光局とともにかなり大きなブースを出展し、昨年と同様台湾観光をアピールする。チャイナエアラインは現在さまざまなキャンペーンを展開しているが、特に日本路線は重要な路線として多くのキャンペーンがある。加えて今年は、中華民国建国100年にあたるうえ、東日本大震災の支援プログラムなどもあり、鍾支社長にとっても気が抜けない1年となることは確実だ。台湾、そして日本のためにも、鍾支社長の活躍が期待される。

▶東日本大震災への取り組み

チャイナエアラインは東日本大震災への取



左:台北駐日経済文化代表処・科技組組長 蔡明達氏/右:台湾科学技術協会監事黄瑞輝博士(中華経済研究院・東京事務所長)/左下:ボランティアの経験者藤岡正樹氏/右下:台湾科学技術協会理事長・林敬三 名古屋産業大学教授

について、「援助物資が届いたと思ったら、避難所では余っているから必要ない」と言われ、その後大余震などが来ると再び「同じ援助物資が欲しい」と言って来ることもある、など、現場の実体験を踏まえた援助物資などの送付や蓄積などの仕組みについて語った。また、洋服などの援助物資も季節があり、震災のあった寒い時期に必要であったものが、夏になると必要なくなってしまうが、援助物資は遅れて届く、などの難題があちこちで起きていることなどを語った。また、藤岡氏はこの講演の後、福島県の猪苗代湖の花火大会に行くとのこと。そこでは全国からの寄付で花火の「玉」を買ってもらい、花火

「日台投資取り決め交渉」に大筋合意

日本政府の台湾との窓口機関である「(財)交流協会」と、台湾の日本への窓口機関である「駐東関係協会」は、この12日、「日台投資取り決め」交渉に大筋合意。この9月にも正式調印されることわかった。本取り決めでは、相互に相手国に投資を行う場合、投資による企業等の設立許可の前に、その待遇を国内投資家と同様の待遇を約束する「内国民待遇」、投資活動にあたって技術移転などを条件とすることを禁じる「特定措置の履行要求禁止(パフォーマンス要求の禁止)」などが盛り込まれており、現在日本と中国間で締結されている、「日中投資保護協定」に比べ、知財などを重視したより踏み込んだ内容となっており、日本と台湾の緊密できめ細かな経済関係が築り込まれていくと見られる。関係者の話によれば、日台間の経済の緊密さは、台湾と大陸の間で昨年6月末に交わされたECFA(两岸経済枠組み協定)による。大陸と台湾の間より緊密な経済関係の進展により、台湾と日本の経済をより一体化させ、台湾が大陸の経済へのゲートウェイとしてより重要な位置を占める可能性がより高くなったとのこと。現在、クロスボー

デー(国境を越えた)化したベンチャー企業への投資ファンドの設立なども噂されており、この流れがさらに進めば日台の市場統合か、それに近い動きもありえるだろう、とのことだ。近年、日本の不況の長期化と東日本大震災の影響で日本の企業の海外投資熱が高まっている。そしてその投資先としては、「成長著しいアジア」が選ばれていることが多い。しかしながらこれまでの歴史的経緯から、日本からの直接投資は数あるアジアの国々のうち、台湾が選ばれたことが多くなり、東京でも「台湾への投資」をうたうセミナーが増えている。一方、台湾は少々歩みは遅れているものの、大陸との間にECFAの関連協約として「知財条約」の締結を進めており、台湾から大陸への投資はさらに増えているのが現状だ。この現状にあって、本条約は日本から台湾へのより多くの投資を促し、日本と台湾が一体となつての「成長著しい」大陸への経済活動の広がりを見据えたものであることは論を待たない。台湾の政府もまた、国内の会計基準のIFRSへの歩み寄りのスピードを速めているだけでなく、外国からの投資を受け入れるべく、これまで大幅な減税、規制の撤廃など多くの施策を行っており、企業の上場なども香港なみにしやすくなっていると言われている。台湾と日本の経済の急速な歩み寄りは、安全と成長を両立させた日台のマーケットを世界の投資家に向かって開く端緒となるかも知れない。この取り決め交渉はその一部であると言える。

呂秀蓮・前台湾副総統「脱原発」の一日



呂秀蓮・前台湾の政府副総統は7月29日、日本を訪れ、さまざまな日本での活動を開始し、8月1日は、「反原発」を中心とした一日だった。呂氏は09:30に、東京の神谷町交差点近くにある大阪法科大学院大学の東京麻布台セミナーハウスで開催された「ノーニクス・アジアフォーラム2011」に出席、台湾における原子力発電の現状と、これに対する反対運動の現状などを語った。

その後、呂氏を始めとする一行は茨城県東海村にある日本原子力発電株式会社に向かった。一行を出迎えたのは日本原子力発電株式会社の東海地区担当・常務取締役の鹿島文行氏と、東海テラパーク(東海原子力館)の館長・星野一夫氏。一行は鹿島氏らに、3.11東日本大震災での東海村原子力施設の被災状況や、それがなぜ東京電力福

島第一発電所よりも被害が少なかったか、そして日本の原子力政策はどうか?などの質問を行い、鹿島氏はそれにこたえた。呂氏は「日本ではあれだけの原発による被害がありながら、非常に静かな印象があるが、なぜか?」などの質問も行った。呂氏は「日本で起きた原発の事故は、台湾でも、全く他人ごととは思えません。今後も台湾のすべての人たちが今回の事故の行方を注視しています」と語った。



日本原子力発電株式会社・東海テラパークにて

なお、呂氏一行が東海テラパークに来る少し前、原口一博総務大臣一行が訪れており、呂氏一行がテラパークを出る時間にも近辺での活動をおこなっていたが、呂氏一行とは顔をあわせる時間はなかった。

東海テラパークを後にした一行は、つくばにある独立行政法人・宇宙航空研究開発機構(JAXA)に向かい、日本の宇宙開発の現状についても視察した。

一連の視察が終了すると、一行はJAXA施設のすぐ近くにある「霞ヶ浦国際ゴルフ

コース」のクラブハウスに移動。同施設の開発者であり台湾国際文教基金会の董事長の劉介甫氏の招待により、一行に晩餐が振舞われた。当日の天気は快晴だったため、一行は随員とともにまずはゴルフコースを見学して回り、その後晩餐となった。この席には東京から台北駐日経済文化代表処の陳調和副代表も訪れ、少人数での晩餐で和やかな雰囲気のものとなった。晩餐後、一行は投宿先の東京へ戻った。呂氏一行は8月2日に帰国した。

宮城県の復興再建スピードに驚き



世界台湾商工会議所の一行は8月21日に来日、翌22日に東日本大震災の被災地である宮城県を訪問した。世界台湾商工会議所の会長盧超義氏は震災直後、僑務委員長の呉氏とともに25個のコンテンツいっぱいミネラルウォーターを東北に寄付した。今回は東北の復興状況を把握するために、盧会長他のメンバーが仙台市を訪ねた。



22日の仙台では宮城県議会で大震災対策調査特別委員長の相沢光哉氏が一日付き添った。一行は県庁で村井嘉浩知事と面会、300万円の義援金を手渡した。その後、岩沼市、名取市、仙台市内の南蒲生搬入場を視察した。相沢氏は宮城県内の目標として「震災から(かれきを)1年内に撤去、3年以内に処理完了」と話したが、その処理の速さに盧氏一行は驚いていた。

また、来年1月の台湾総統選挙に向けて一行は東京銀座で日本での馬英九総統後援会を立ち上げた。10月2日に台北で世界各地の後援会が集まる。

世界台湾商工会議所会長ら 来日し東北を訪問

「汐博2011」に高雄市政府副市長陳啓昱氏来日

日本テレビイベント参加と台湾物産館訪問



来場者に高雄のアンズリウムとバナナを配る 台湾・高雄市の副市長陳啓昱氏

日本テレビのイベント「汐博2011」の高雄市のイベントに、20日、高雄市の副市長である陳啓昱氏が、高雄市の農産物のPRのためと、高雄市から日本への義援金の引渡しのため登場した。

18日の初日は12:00と15:00に高雄市の農業局、陳啓昱氏らがこのイベントの口火を切り、日本のテレビでのニュースにもなり、19日

もイベントが行われた。最終日の20日、高雄市の副市長陳啓昱氏が訪れ、バナナとアンズリウムを200組無料配布するだけでなく、高雄市から日本への義援金の受け渡し式が行われ、義援金が陳副市長から日本テレビのイベント事業部長・大澤雅彦氏に手渡された。司会は、日本テレビの人気アナウンサー、宮崎宣子さん。

イベントが始まると、ステージ周辺に汐博2011に訪れた人が集まり始め、熱気があふれ、用意したプレゼントは30分ほどでなくなった。

一行は翌21日、台湾政府の行政院・農業委員会の台湾アンテナショップである台湾物産館の笹塚本店を訪れた。さらに、台湾物産館の社長・池栄グループの藤田克己社長と懇談しつつ店内を見て回り、台湾の物産が日本でどのように受け入れられているか、などの藤田社長の説明に傾いていた。

陳副市長一行は、22日の夜の便で台湾に帰国した。

「汐博2011」で高雄市政府農業局が来日



汐博で7月22日から8月21日にかけて開催された日本テレビのイベント「汐博2011」で、8月18日から8月20日にかけて、台湾の高雄市のイベントが行われ、20日の最終日には高雄市の陳啓昱副市長も訪れた。それに先立って初日の18日、12:00に高雄市の農産物のPRのため、高雄市政府農業局の陳啓運さんはじめ、3人が高雄市政府から訪れ、バナナとアンズリウムを100組、無料配布し、30分ほどで配り終えた。この日の様子は日本テレビのニュースでも放映された。

ぼくらは台湾への気持ちを泳いで届ける

「日台黒潮泳断チャレンジ2011」のメイン泳者であり、企画者でもある鈴木一也氏にお会いした。鈴木氏は競泳の世界で全国中学校、インターハイ、国体の大会に出場、全国トップレベルの成績を残し多くの優勝を勝ち取り、ライフガードの競技でも日本のトップを飾ってきた。その鈴木さんは、大手電機メーカーに就職後、子供たちの水泳指導など、多くのボランティア的な活動を地元茅ヶ崎でやってきた。そして自身も、伊豆大島から茅ヶ崎までのおよそ60kmの泳断などのチャレンジを行った経験を持つ「冒険大好き」な若者だ。

を見つけ、すぐに電話をした。「日本と台湾を泳いで渡る」ことを熱く語る鈴木さんの話を聞いた松本氏は、震災以来、暗く沈んでいることの多い日本の現状をなんとか変えたい、と思い、最初は半信半疑で鈴木さんと会うことにしたという。鈴木さんと実際にお話をしてみると、明るくまじめで、裏表を感じさせない。熱い気持ちだがクールな声と表情の向こう側に見える。そんな人だ。この人に説得されたら、誰でもいやとは言えないだろう。

泳断はリレー形式で数人の泳者が行き、横切ることになる黒潮の流れを測り、あまりにひどい悪天候の場合は中止や延期も躊躇しない。泳者には常に2隻の船も同行する。また、カヌーも一緒に日本から台湾に渡るという。既に本番となる9月17日の前に、幾つもの試泳を現地で行っているという念の入れようだ。いま、このチャレンジへの参加者が増えると同時に、応援団も増えている。応援団長は元首相の海部俊樹氏と、プロ野球でおなじみの王貞治氏。今も多くの「チャレンジャー仲間」と「応援団」を松本氏と鈴木さんは探しつつ、9月17日のその日に向かって突っ走っている。



(左)実行委員長の松本成彦氏。(右)今回のメインのスイマー、鈴木一也氏

2011年「日本の中だけ」ではなく、日本と外国を結ぶチャレンジができないか?と考えていたところへ、東日本大震災が日本を襲った。そのとき、台湾から200億円を超える(2011年8月1日現在)義援金が日本に贈られたことや、多くの教授物資、ボランティアが日本で活躍したことを聞き、ライフガードの競技で知り合った台湾からの選手のことを頭に浮かんだ、という。

鈴木さんはインターネットで調べ「日台マラソン協会」をはじめ、多くのスポーツ系の日台友好団体では必ず名前が出てくる松本成彦氏

「辛亥革命」が東京国際映画祭の特別オープニング作品に

10月22日から29日まで、東京で開催される「第24回東京国際映画祭」で、その特別オープニング作品に、ジャッキー・チェンが30億円をかけて制作し、辛亥革命をテーマとした映画「辛亥革命(日本では「1911」)」が上映されることに決まった。同映画祭では、他にも仏米英独の合作「三銃士/王妃の首飾りとダ・ヴィンチの飛行船」が公式オープニング作品となっている。



代表処での審査風景

台湾新聞社主催「台湾感動100コンテスト」結果

台湾新聞社主催「台湾感動100」・紀行文コンテストと写真コンテストの最終審査が、8月25日、東京・白金台の台湾の政府の大使館にあたる台北駐日経済文化代表処で行われた。

今回審査された作品は、写真応募作品160点、紀行文応募作品150点の中から、台湾新聞社内での一次審査を通過したもので、写真は28作品、紀行文は16作品。そのうち



今回「台湾感動100」写真コンテスト2011で大賞を受賞した大野雅生さんの作品「無題」。台湾の各地にある観光名所「夜市」の様子が写されている。

ちから、今回の審査で、それぞれ大賞、優秀賞をはじめ、賞に該当する作品を選び、それぞれ12作品、6作品が選ばれた。

今回の最終審査の結果は、9月1日発行の台湾新聞紙上で発表されると同時に、同日ネットでもその作品が発表される予定だ。また、表彰式は11月10日、同じく台北駐日経済文化代表処の公邸で行われる。

主催者の台湾新聞社・社主・錢妙玲は、「このコンテストを機会に、台湾の良さ、美しさを、これらの作品で見て、そして語っていただければ、台湾新聞社としても、これに勝る喜びはありません。来年もまたコンテストを続けたい」と語った。

数多くの作品を応募してくださった皆様、読者の皆様、そして審査員の皆様、本当にありがとうございました。

審査結果は以下の通り

- ◆「写真コンテスト2011」結果
 - ・大賞(台北駐日経済文化代表処賞) 「無題」大野雅生
 - ・優秀賞(台湾観光協会賞) 「農の旅 さわやか緑 水旨まし」福村晃司
 - ・特別賞(エバー航空賞) 「無題」大野雅生
 - ・特別賞(台湾好き!賞) 「おとぎの国」土屋展(つちや ひらく)
 - ・佳作
 - 「知られざる美人蕉の名産地」福村晃司
 - 「無題」高田浩子
 - 「明鏡止水」飯島一隆
 - 「ジャンプ!」岩崎優
 - 「宝島溪谷」竹崎俊茂
 - 「みんなで乾杯」岩崎優
 - 「八將團出陣」釜谷智弘
 - 「燦爛之光迎新年」竹崎俊茂

- ◆「紀行文コンテスト2011」結果
 - ・大賞(台北駐日経済文化代表処賞) 「無題」内野美由紀
 - ・優秀賞(台湾観光協会賞) 「淡水の夕陽に捧げる日台友への祈り」佐野裕太
 - ・特別賞(チャイナエアライン賞) 「墾丁夜市」大葉二良
 - ・特別賞(台湾物産館賞) 「あふれる笑顔in台湾」岡田佳代子
 - ・佳作
 - 「心優しき平溪線の旅」茂清順司
 - 「肌で感じた、台湾の優しさ」葉月みか

秋田 「あきたいわん祭り」で、台湾のパフォーマンス ～世界一のライチパンなど披露～

8月6日、7日に秋田市の秋田ポートタワーセリオンで、秋田と台湾の文化交流イベント「あきたいわん祭り」が開催された。来場者数は15,900人と、盛況だった。

祭りの2日間、2010年度「マスター・ド・ラ・ブルー」グランプリ受賞者である呉宝春さんによる「荔枝玫瑰麵包(ライチを使ったパン)」の日本初となる公開限定販売と「マスター・オブ・ナイフ」受賞者である五つ星ホテルの総料理長・郭泰王シェフによる料理の技の披露、台湾茶界の第一人者である許煥文さんによる



台北駐日経済文化代表処の馮奇台代表を囲んで、左から3番目がライチパンの呉宝春さん。左から6番目が台湾茶界の第一人者である許煥文さん。

台湾茶界の第一人者である許煥文さんは「包種茶」と「東方美人」の試飲会をおこなった。有名な台湾のお茶「東方美人」は20gで1,300円という高額にもかかわらず、買い求める人が絶えなかった。7日の午後には、5つ星ホテルの総料理長・郭泰王シェフによる料理の実演には約200名の市民が広場に集まり、その高度な技に見

入っていた。秋田市長の穂積志氏は7日、イベントの開催にあたり挨拶し、秋田に来る台湾の観光客は年間約1万人に上り、秋田の観光産業では重要な位置付けにあることを語った。

台湾からの心温かい支援が止まない。東日本で3月11日に起きた未曾有の大震災から約5か月以上経過したが、義捐金は200億円を超えた(2011年8月末現在)。さらにボランティアなどの人道支援も多岐にわたっており、台湾人の情に日本人として心より感謝の意を表したい。

台中市政府は、震災後すぐに日本人を対象に台中市内のホテルや旅館を無料開放する支援策を打ち出した。「被災で居住する場所がないと聞き、すぐに踏み切った」(張大春観光局長)と対応の素早さを話す。民間企業からも厚い支援が後を絶たない。台中市内のタクシーの運転手は「日本人なら運賃を安くしても乗車してもらいたい」「困っているなら何でも相談してください」と話す。台中市名物の夜市でも、「震災後の日本はいかがですか」「いま日本に必要なものは何ですか」と率直に聞いてくる。それも露店の人々から。本当に心配している気持ちがひしひしと伝わってくる。台湾で人気のプロ野球も「加油!(がんばれ!)日本」と文字が書かれたヘルメットを選手がかぶってプレーしている。それも台中市と桃園市内球場の両方で。日本でTV放映されているかも知れないのに、自ら進んで支援の気持ちを表面化させている。官民間問わずその姿

勢には、人としての温かさを感じる。台中市内に住むとある初老の方がこう言った「台湾はその昔、欧州からそして日本から統治された時代があった。国力がいささか乏しかったから諸外国からの力に頼った。」「しかし、いわゆる植民地とか支配とか、一般には言われているが、実情は決してそうではない。日本人は、治水事業しかり工業技術支援、漁業、農業などほとんどの産業の人的支援に尽力を惜しまなかった。私は祖先からそう聞いている」と。単に占領しただけの国として日本を見ていないのだという。それが台湾人の心だろう。そういう気がしてならない。

「いま台湾は急速に国力が伸長している。この発展の基盤は自国だけの力ではなしえないと思っている。諸外国それも日本の、もつと言えれば日本人の功績は決して忘れない。だから言う。私は今回の震災で日本が完全に復興するまで支援し続ける」と。今年には中華民国建国100年の節目の年でもある台湾。また、来年には総統選も控える。台湾人の心はいま日本人に確実に届いている。そして日本人もいつの日か恩返しする時が来る。日台の友好はますます強固になるだろう。それを念じてやまない。(田代 守)

台湾で「台湾人の心」を見る

東北の3つの夏祭りに台湾観光協会・民族芸能団が参加

台湾観光協会・東京事務所の黄怡平所長は、8月1日、「盛岡さんさ踊り」、「山形花笠まつり」、「福島わらじまつり」に台湾からのパフォーマーが参加することを発表した。東北地方では夏に集中して多くの祭りが開かれることで知られ、寒冷地である東北地方の短



い夏を楽しむ。夏に開催される東北地方のまつりは約20ほど。発表では、台湾の政府・交通部観光局の台湾観光の新しいブランドである「A Heart of Asia」-「アジアの心・あなたの心に感動を」を日本からの観光客に広く知ってもらうこと

安くて早くていつでも動いていて清潔で安心! 「台湾の長距離バス」

台北桃園空港から路線バス約80分で台中市内に到着する。片道240元(650円ほど)は良心的な価格といえる。その路線バスの内装は豪華だ。1人席10席、2人席10席の計30人乗りで二階建て。客室が2階で1階は荷物室。トイレは1〜2階にまたがる形でほぼ中央に位置



台湾では各地に高速バス網があり24時間動いている。現在競合する路線バス会社は5社程度あり、しのぎを削る。各社ともにサービスに余念がない。

台湾では、現在南北に高速鉄道(新幹線)が新設され、台北〜高雄間が1時間36分で行く事ができるため、台北を中心に日帰りの往来が可能だ。これまでの在来線に加え新幹

線新駅の新設もさらに利便性に拍車をかける。その一方で路線バスの存在も一層強くなっているという。学生を中心に比較的安い運賃で長い距離に乗り得るメリットが人気の理由とみられ、「多少時間がかかっても安いし旅の風情も味わえるから」(乗客の学生)とその理由を話す。

「新幹線や在来線は乗り継ぎなどで少し面倒」という人の意見も多い。台湾ではバスによる移動手段がいまだに根強い。各空港から市街地までの交通アクセスは、低運賃、利便性、そして何より景色が身近...など、さまざまな理由から路線バスの存在感はその度合いを増しているようだ。



エバー航空に「ハローキティ」機が3年ぶりに登場

エバー航空の発表によれば、この10月にサンリオのキャラクター「ハローキティ」の機体が登場すること。エバー航空は以前もハローキティ機を運行していたが、3年前に借しまれつつ引退。3年ぶりの登場となる。今回はさらに磨きがかかり、CAもハローキティの髪飾り、エプロンなどをつけるだけでなく、機内食にも「ハローキティ」が登場するという。

爽やかな那須の風と豊かな森の空気を感じながら

温泉かけ流しの宿

西絆荘

せい はん そう

客室は全9室、くつろげる和室となっております。

天然のかけ流し温泉を贅沢に使用した浴場は、24時間ご利用が可能です。※1

客室のベランダからは、四季折々の自然のパノラマが楽しめます。

全自動麻雀卓(1卓)を無料でお楽しみ頂ける施設としてご利用しております。完全な個室です。※4

衛生通信カラオケ機が無料でご利用いただけます。皆様讀り合いのうえお楽しみください。※3

ダイニングに隣接したテラスでは、バーベキューが可能です。※2

※プランの変更は当日でも可能です
 ※お子様ランチ(幼児用)1人前2,000円で承ります
 ※別途、入湯税150円頂戴しております
 ※10月~3月の期間は暖房費としてお一人様別途1000円頂戴しております

※クレジットカードはお取り扱いしておりません
 ※お飲物は販売しておりますが、持ち込み自由です
 ※事前の告知なく料金が変更になる場合があります

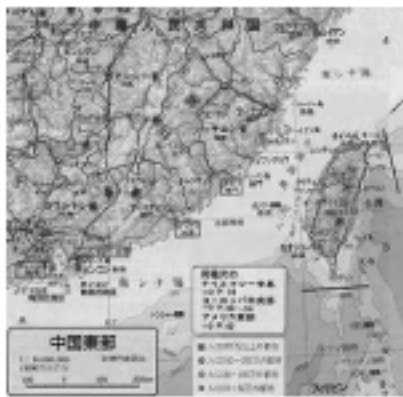
※カーナビや地図検索で住所を入力すると、場所が合わない場合があります。
 西絆荘 / 栃木県那須郡那須町湯本203
 Tel.0287-76-8691

お問い合わせ 株式会社エムエムシー企画 担当:北中,西村
 Tel.03-5986-1121 Fax.03-3959-4800

※1 かけ流しのため、湯温は日々変化いたします
 ※2 別途料金、要予約(バーベキュー)
 ※3 原則として23時に終了をお願いいたします(カラオケ)
 ※4 麻雀卓のご利用はスタッフまでお申し付けください(先着順)

教科書の台湾表記に危惧

台湾の政府の日本の出先機関である台北駐日経済文化代表処の発行するWebニュース「台湾週報」によれば、日本で台湾を中華人民共和国領として表記する地図を含む中学校教科書が日本文部科学省の検定を通過し、その教科書が2012年から使用される、という問題に関して黄明朗・重東関係協会秘書長が8月2日、外交部の定例記者会見で説明を行い、「この件については昨年7月より、駐日代表処から日本の交流協会に厳正な懸念を伝達したこと、「馮寄台・駐日代表が日本の『毎日新聞』に『教科書の台湾表記に危惧』と題する寄稿文を發表し、日本側に表記を正すよう呼びかけたこと、さらに『外交部は今年4月に交流協会台北事務所の今井正代表を呼び、抗議を申し入れた』ことなどを語った。しかし、現在日本側からの回答は無いとのこと。なお、黄所長は今後も同問題を日本政府に対し提起し続けていくとのこと。



現在日本で使われている教科書には台湾は中国領として描かれている

中津川衆議院議員が「台湾出身者戸籍問題」を質問



写真は今回台湾人の戸籍問題について質問した中津川博郷(なかつがわ・ひろさと)衆議院議員。(台湾新聞撮影)

7月27日、衆議院外務委員会において与党・民主党の中津川博郷(なかつがわ・ひろさと)議員が現状、台湾の出身者を「中国(中華人民共和国)籍」としており問題となっている、いわゆる「台湾出身者の戸籍問題」を取り上げた。中津川議員はこの件について、法務省に対して戸籍法の改正を求めた。これに答えた法務省の小川敏夫(おがわ・としお)副大臣は「日本の国籍表示において台湾を認めるか否かは、台湾に対するわが国の立場を踏まえて慎重に検討する必要がある」と回答。明確な回答を避けた。なお、台湾出身者の戸籍問題が国会で審議されたのは今回の中津川議員の質問が初めて。

【解説】「台湾出身者の戸籍を台湾に」運動広がる

1972年に日本と中華人民共和国で交わされた共同声明により、日本と大陸中国との国交が成立。そのとき、それまで日本と正式な国交がありながら、大陸中国の政權である中華人民共和国が主張する「領土の一部」として、台湾にある政權であった「中華民国」は、日本との正式な国交が断絶された。当時の世界情勢では、1945年以来、国連の正式なメンバーであった中華民国がそのメンバーから外れて大陸中国の政權の国連への正式加入(1971年)、米中接近の「ニクソン・ショック」(1971年)、という2つの大きな動きに日本政府が揺れ、日本政府がその答えをあわてて出した結果だった。当時は中華民国は中華人民共和国にすぐに飲み込まれなくなるのではないかと、言われていたが、国連加盟各国の思惑を他所に、それから40年間、第二次大戦終戦から都合60年間の歴史を経てなお、国家としての体裁を崩さずにいるばかりか、大陸中国の政權と一定の距離を保ちながら、米国や日本をはじめとした、いわゆる「西側諸国」との交易のみならず、大陸中国との交易でも大きな利益をあげ、人口2300万人ほどの島国でありながら、2011年の経済成長率は10%を超えるなど、アジアでもトップクラスの経済国家となりつつある中華民国(台湾)だが、ここに至って日本国内でも「台湾復権」の動きが強まっている。

呂秀蓮・前台湾副総統来日、台湾人医師会と懇親会

台湾の前・副総統・呂秀蓮氏が、2011年7月29日にノーニクス・アジアフォーラム

2011に出席のため来日した。31日の夕刻、銀座一丁目の「かんこ」レストランで、在日の台湾人医師会と懇親会を持った。今回、呂秀蓮氏が率いる一行は、呂氏の他8名。前駐韓国の代表、李在方氏、台湾国立海洋大学応用地球化学研究所教授の李昭興氏など、専門家を含め多彩な陣容となっている。



このほど、岩手県の不来方高校一年生・千田みずきさんから、台湾の政府の大使館にあたる台北駐日経済文化代表処に、手書きの感謝状が届いた。感謝状は東日本大震災の被災者に対する台湾からの支援について感謝の意を表したもので、日本の国旗と台湾の旗も並べられ、みずきさんの感謝の気持ちが伝わる、かわいく温かなものだ。日本の高校生から台湾の政府に感謝状が贈られたのはこれが初めてとなる。

岩手県の女子高生から代表処に手作りの感謝状

このほど、岩手県の不来方高校一年生・千田みずきさんから、台湾の政府の大使館にあたる台北駐日経済文化代表処に、手書きの感謝状が届いた。感謝状は東日本大震災の被災者に対する台湾からの支援について感謝の意を表したもので、日本の国旗と台湾の旗も並べられ、みずきさんの感謝の気持ちが伝わる、かわいく温かなものだ。日本の高校生から台湾の政府に感謝状が贈られたのはこれが初めてとなる。



写真上:台北駐日経済文化代表処に岩手県の高中生千田みずきさんから届いた感謝状
写真左:代表処に感謝状を贈った千田みずきさん

国際空手道友誼大会・台北で開催

「2011台北国際空手道友誼大会」が、2011年8月6日、台北で開催された。同競技会は世界の空手道団体が一同に集い開催されたものだ。8月3日は開催地の台北で記者会見が行われ、多くの台湾マスコミが訪れた。また、開催日の前日には、国際空手道審判会議が開催された。主催団体はIJKA(国際日本武術空手道会:総本部理事長:浅井恵子氏)だが、台湾の政府行政院内政部和體委會も指導にあっている。また、協賛は中華民国空手道聯盟、高雄市空手道協會、台北市空手道協會、中華電信空手道社。



今回の大会は浅井氏没後5周年・中華民国建国100周年を記念して行われ、100名以上の世界各国から来た空手のエキスパートたちが技を競った。主催団体のIJKAは、故・浅井哲彦氏が日本と台湾を結んで空手道の普及を目指して作られた国際団体。現在はオリンピックへの空手道の参加などを目標しているとのこと。

東京華僑商工聯合会・夏の懇親会

一般社団法人・東京華僑商工聯合会(代表理事:高博恭氏)の懇親会が、2011年8月27日、東京の浜松町駅近くの「楓林」で行われた。



懇親会には約50名が参加。主催者の高代表理事の開会の挨拶の後、来賓代表として台北駐日経済文化代表処の馮寄台代表が挨拶、東京に赴任して3年めであること、そのあいだに多くの台湾と日本をこれまで以上に強力につなぐ施策を実現してきたことを語った。その後、前・東京華僑總會会長の朱恭亮氏が挨拶し、その後乾杯となり懇親会が始まった。会場には、趙雲華僑務組長も同席し、にぎやかな宴となった。



台湾からさらに1千万台湾元の義援金 林澄枝総統府資政が来日

林澄枝・総統府資政が2011年8月26日に来日し、台湾と日本のとの窓口機関である財団法人交流協会を訪れ、台湾の中華民国婦女連合会からの1千万台湾元、(日本円で2,600万円あまり)の義援金を、交流協会の島中篤理事長に手渡した。この義援金の贈呈式には、台湾の政府の日本での大使館にあたる、台北駐日経済文化代表処の馮寄台代表も同席。台湾からのマスコミもこの贈呈式を見守った。



林澄枝資政は、日本での東日本大震災の被災をテレビで見て、大変に心を痛めたと同時に、その後の日本の力強い復興の姿を見て、頼もしくも思ったという。また、交流協会の島中理事長は、他の国々を凌駕した台湾からの多くの励ましのメッセージと非常に多くの台湾からの義援金にお礼を述べ、日本国民全体が感激していることなどを述べ、今回の義援金についても、お礼を述べた。

写真(上):義援金の目録が林澄枝総統府資政から、財団法人交流協会の島中篤理事長に手渡された
写真(下):
(左)財団法人・交流協会の島中篤理事長
(中)中華民国政府総統府資政の林澄枝氏
(右)台北駐日経済文化代表処の馮寄台代表

エバー航空、9月下旬に「仙台-桃園」線再開

8月25日、エバー航空が東日本大震災の被災で運航停止していた仙台空港と桃園国際空港を結ぶ路線を再開すると発表した。発表によれば再開時期は9月下旬。最初は不定期のチャーター便を皮切りに、10月30日からは、従来通りの週2便の定期便も運航すること。日本でも甚大な被害を受けた被災地の仙台と桃園を結ぶ路線の再開をこの時期にしたのは、現時点で東北地方の観光地の多くが復旧したこと、秋の観光シーズンを迎えることなどを考慮したためと説明があった。

元首相安倍晋三氏が9月7日に訪台

9月7日、台北市で開催される予定の台湾安全保障協会主催・民主基金会協賛による国際シンポジウムに出席するため、安倍晋三元首相が訪台の予定。民主基金会の理事長は王金平・立法院長(日本での国会の議長にあたる)だが、民進党主席の蔡英文氏、元駐日代表の羅福全氏、前駐日代表の許世楷氏、台湾独立連盟の黃昭堂議長らが、同シンポジウムに参加の予定。

日本企業と台湾企業の堅実な提携こそ必要

関東地区中華民国100年実行委員会会長・日本華商總會副理事長の朱恭亮氏と、台湾と関わり深い日本企業数社が8月26日、台湾観光協会・東京事務所の黄怡平氏を訪れ、今後の中小企業の台湾とのかかわりについて、話し合った。今回黄所長を訪問したのは、朱氏のほか、光ディスク産業の中堅、「株式会社アシスト」の加藤光淑社長、旅行業には欠かせないオンラインでのワンス

トップ航空券予約・発券サイトを運営する「エアプラス株式会社」の岡田健社長、そして、ICカードの革新的な事業で業界でも多くの実績を持つ「非接触テクノロジー株式会社(HST)」の田邑元基社長。懇談は和やかなうちに進んだが、大企業よりも中小企業の数が多い台湾と日本では、特に日台の中小企業のコラボ



レーションが双方の経済の行方を決め、そのためには中小企業どうしの連携こそが必要、という認識がある。大企業だけでは動かない「産業」の難しさこそ、日本と台湾の産業界の共通点だと思われる。今回のこの台湾と関わり深い日本の中小企業を中心に、日本側からも台湾をサポートし、今回の中華民国100年の記念行事も、一緒にお祝いをしていく、ということだ。台湾と日本の中小企業の絆が中華民国建国100年を機に、さらに広く深く動き始めている。なお、このメンバーは、今月17日にホテルオークラで開催される慶祝中華民国建国100年記念関東地区懇親大会にも出席の予定だ。

100%海洋性コラーゲン 美鱈物語

特別抽出法利用。天然の魚鱈から抽出されたフィッシュコラーゲン、無添加で安全。飲むフィッシュコラーゲン、無添加で安心。低分子量、消化吸収がしやすい。高品質 45000mg 配合。

詳しくはホームページへ <http://scaletalk.jp> お問い合わせ 03-5812-4868 info@scaletalk.jp

株式会社 奥里 東京都台東区上野 3-21-1 宮本ビル2F

★山手線新大久保駅2分 ★総武線大久保駅1分

嘉南旅行社

東京都知事登録旅行業第2-4417号(社) 全国旅行業協会正会員

台北 ¥23,000(税別)	北京 ¥23,000(税別)	上海 ¥35,000(税別)
大連 ¥32,000(税別)	韓国 ¥27,000(税別)	越南 ¥32,000(税別)
香港 ¥32,000(税別)	曼谷 ¥32,000(税別)	新加坡 ¥32,000(税別)

●代辦中國、東南亞簽證、護照、港澳●日本國內觀光、温泉、滑雪旅行●世界各地便宜機票、酒店及團體旅行●來日團體的酒店、送車、導遊●電訂位、送機、確實

精通國、臺、日語服務親切 銀行匯款口座 三菱東京UFJ銀行練馬駅前支店 (昔) 3678888 (名義) 嘉南観光(株)

營業時間: 週一~五 9:30~18:30 週六 9:30~13:00
TEL: 03-3366-3988 FAX: 03-3366-2989
地址: 〒169-0073新宿区百人町2-20-1第二岡田屋ビル401

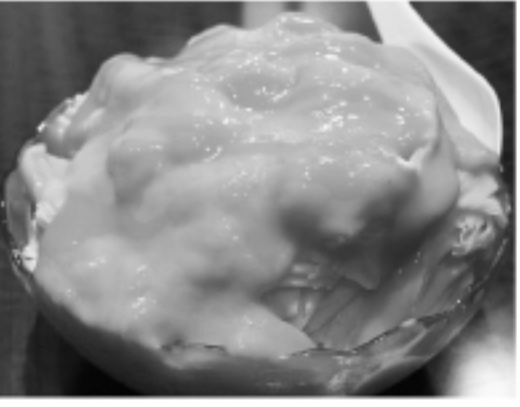
◆1887年創業◆
建築全般・リフォーム
内装・不動産取引
神奈川県厚木(1)第27022号

(株)ピガロ
担当: 小島
二級建築施工管理技士

神奈川県厚木市佐野町 6-15
TEL: 046-853-3173
FAX: 046-851-5933
携 帯: 090-2524-2821

9月3、4日の「台湾祭り」のメニュー大公開!

マンゴーの果肉と果汁を凍らせてかき氷にし、その上にマンゴーソースをかけた、まさにマンゴーづくしの台湾のマンゴーかき氷。(写真は台湾物産館のマンゴーかき氷)



9月3、4日に恵比寿ガーデンプレイスで行われる「台湾祭り」の詳細が台湾新聞社の調査で明らかになった。当然のことながら、台湾新聞では特にその「グルメ」を中心にお話を伺った。

まず、食べ物は台湾の屋台料理が中心で、キッチン付きの特別車が5台も入る。さらに、出店のブースが12あり、台湾観光協会、チャイナエアライン、エバー航空など、台湾への旅行にあたってのすべての情報をここでゲットできる。さらに、台湾の「ちょうちん」を自分で作る「DIYのクラフトコーナー」なども設けられ、子供だけではなく大人も楽しめる。食べ物だけではなく、「足つばマッサージ」の体験のテントもある。



また、中央にはステージが設けられ、4日の日曜日には横浜中華学院OBなどが出演する「中華獅子舞」が両日に渡り、カラフルな衣装とリズムカルな踊りで有名な台湾の少数民族の踊りとして披露される。

「台湾屋台料理」は、あっさりしておいしい台南担仔麵、日本人にも人気の肉のそぼろを使った魯肉飯(ルーローハン)、台湾の味の焼きビーフン、牛肉麵、台湾風の大きな鳥の唐揚げ(香辛料が台湾風で一味ちがう)、台湾風のピリカラ腸詰、そして、なんと数種類のマンゴーかき氷や練乳を使った独特のあずきかき氷など。氷そのものが練乳を凍らせたフワフワのかき氷「雪花氷」、などなど、台湾に行ったことのない人でもまずハズレの無いグルメを揃えている。さらに、さすがビールのふるさと恵比寿だけあって、恵比寿ビール、そして台湾から台湾ビールもやってくる。もちろん、台湾の紹興酒もあるとのこと。

マンゴーかき氷の屋台は台湾物産館が行うとのことだが、マンゴーの果肉と果汁を凍らせたものを輸入し、それをやはり輸入した台湾製のかき氷機で作っており、さらにその上にマンゴーのソースをかける、という本格的な「台湾マンゴーかき氷」だとのこと。台湾に行く前に、台湾気分を味わえる。

さらに、来場してアンケートに答えた方の中から、抽選で台湾との往復の航空券も当たる。

「台湾祭り」の収益の一部は東日本大震災の被災者に向けた義援金として寄付される予定だ。

なお、本イベントの主催者は「日本中華聯合總會」という台湾系の在日華僑団体。日本の東日本大震災に、義援金208億円(2011年8月25日現在)と、多くの物資、ボランティアの厚い援助を行った台湾の人たちへの「お礼」の意味でも「台湾祭り」にお伺いするのも、良いのではないだろうか。



山梨台湾総会・中華民国建国100年記念 東日本大震災チャリティコンサート

山梨台湾総会は、2011年7月29日、中華民国建国100年記念・東日本大震災チャリティイベントとして、「精彩・台湾感動100コンサート」を、山梨県甲府総合市民会館ホールで行った。当日は、台北駐日経済文化代表処の羅坤燦副代表、僑務組の趙雲華組長も訪れ、華やかだが落ち着いた雰囲気コンサートとなった。

ステージの最初に挨拶に立ったのは、山梨台湾総会の陳秀錦会長。続いて羅坤燦副代表らの挨拶が続いた。最初にステージに立ったのは、日本の音楽、「津軽三味線」の福嶋孝順さんと井上大輔さん。その後、林耕樞さん率いる明心琴楽団のメンバーの台湾の民族音楽の数々、そして、歌手・寒雲さんの歌でステージが湧いた。さらに、中国雑技団、口笛で音楽を奏する李貞吉さん・李育倫さんが続き、素晴らしい音楽の宴が続いた。特に寒雲さんはこの日の最初から終わりまで司会も努めた。

コンサートが終了すると、山梨台湾総会の陳会長をはじめとしたメンバー、出演者らが集い石和びゅうほてで「打ち上げ」を行った。打ち上げでは、趙雲華・僑務組長も挨拶し、楽しい宴会となった。また、コンサートから打ち上げの祝宴まで、寒雲さんの地元、石川からは二木喜則さんをはじめとする「応援団」もやってきて、コンサートを盛り上げた。

第15回 台医会合同音楽会

最初に中山医学大学校友会会長の中里憲文氏と、台医会合同音楽会会長の中原昂氏が挨拶



今年で15回めになる、中山医学大学日本校友会主催の台医会合同音楽会が、新宿の明治安田生命ホールで8月28日に行われ、340席あまりの客席は満員となった。最初に中山医学大学校友会会長の中里憲文氏と、台医会合同音楽会会長の中原昂氏が挨拶。両会長とともに、全員で東日本大震災の被災者への黙祷を捧げ、「天聽是撫會光」が会場全体で歌われた。その後、台医会アンサンブルの室内楽・ビバルディの四季のうち「夏」の第1楽章から第3楽章で音楽会は幕を開けた。

その後、独唱、二重唱、二胡のアンサンブルの演奏、合唱団の演奏などが続き、日本でも有名な「川の流れるように」「上を向いて歩こう」など、親しみやすい曲も歌われた。特に心音合唱団の歌ったペーターベンの「喜びのうた」は、合唱だけではなくサクソフォンの演奏なども入り、会場のテンションは一気に上がった。

音楽会全体は第一部と第二部に別れ、そのうち第一部の終わりには、医師であり、また台湾では数々の音楽賞を受賞している有名なシンガーソングライター、鄭

2011年 台医会合同音楽会



台医会アンサンブルの室内楽で音楽会は幕を開けた



心音合唱団(指揮とバイオリンは張瑞銘氏)

智仁氏がピアノの弾き語り、日本のために祈りを捧げた曲「別頭祭神」を披露。会場では涙を流してその曲に聞き入る人もいた。

会場には台北駐日経済文化代表処の趙雲華僑務組長も訪れ、すばらしい音楽の宴を楽しんだ。

なお、中山医学大学日本校友会会長の中里氏は、その挨拶の中で、今年の台医音楽会を開催するか否かでさまざまな意見が会員からも出たが、日本中の「自粛ムード」ばかりでは日本の経済の衰退にもいっそうの拍車がかかってしまうかもしれない、と考へ、日本の医学界に生きる多くの同胞のため、そして愛する日本のために、今年の音楽会も従来通り行うことを決定したとのこと。

関東の華僑団体が集う「建国百年記念懇親会」

東京、横浜、埼玉、千葉、山梨、茨城、群馬、栃木の各地区の華僑団体が構成される「中華民国建国百年間等地区実行委員会(会長:朱恭亮氏)」は、日本中華聯合總會とともに本年9月17日(土)に「百年記念懇親会」を、日本の友人たちも加わって東京のホテル・オークラで開催することになった。関東地区の華僑団体が一堂に集うのは今回がはじめて。本会は特に産業界その他の日台交流を促進することも目的となっている。

◆ 中華民国建国百年記念関東地区懇親会開催
テーマ:日台の文化と経済の交流
主 催:日本中華聯合總會、中華民国建国100年関東地区実行委員会、共 済:東京華僑總會、横浜華僑總會、千葉県中華總會、埼玉台湾總會、茨城県中華總會、群馬県台湾總會、山梨台湾總會、日本華商總會
後 援:台北駐日経済文化代表処、日台経済交流会
協力:台湾観光協会、東京華僑工商聯合会、東京・横浜中華学校校友会、大日台湾商工会議所、台湾新聞、その他
日時:2011年(民国百年)9月17日(土) 18:00-21:00
場所:ホテルオークラ・アスコットホール 1・II
〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-10-4 TEL:03-3582-0111
※聖火リレー、中華獅子舞、その他のアトラクションもあります。

◆ 今後の関東地区建国100年記念行事
9月17日:中華民国建国百年記念関東地区懇親会(上記)
10月 2日:中華民国留日東京華僑總會主催:建国100年双十國慶節(於:東京中華学校)
10月10日:横浜華僑總會主催:建国100年双十國慶節祝賀大会とパレード(於:横浜中華学院・横浜中華街)
10月16日:千葉県中華總會主催:中華民国100年國慶双十節祝賀会(於:ホテルグリーンタワー幕張)
11月10日:台湾新聞主催:「台湾感動100」コンテスト表彰式(於:台北駐日経済文化代表処公邸)
< 行事についてのお問い合わせ先 > 中華民国100年関東地区実行委員会
〒106-0032 東京都港区六本木7-5-10 華商會館4階 日本華商總會内
TEL:(03)3408-4468 / FAX:(03)3408-0382

大阪僑團聯合會 設立公示

我々「大阪僑團聯合會」は去る二〇一一年六月一日、正式に日本の一般社団法人として設立登記いたしました。

戦後の日台の歴史に於いて、地理的關係並びに戦前からの両国の關係により、学生や経済人、旅行者だけでなく医師においても、海外渡航先として一番に思い浮かぶのは日本であります。そのような理由から、異郷日本において生活する同郷同親の者が徐々に増えていき、相互扶助の精神から、自然発生的に僑団が生まれてくるのは当然であり、中華民国政府も愛郷の情を培い、愛國精神の發揮を願ひ、僑團の設立を積極的に推進して参りました。我々六僑団は同郷、宗親、同業、或いは同じ志を持つ者達が、前後して設立したものであります。歳月の流れの中で、各僑団の組織・業務も拡大していき、趣旨・目的が同様の活動・行事が重なった事に伴ひ、各僑団が個別に開催するの比し、共同開催の方が合理的かつ機能的ではないか、という考えに至ったわけでありました。またそれ以前に、僑務委員会が先見の明を發揮し、僑団に対し「大僑社」組織の呼びかけを行ってあります。我々六僑団はこれに呼応し二〇〇八年初夏以降、共同して活動・行事を実施し、その回数は既に十八回にも及び、参加僑団は最多時で十二団体にも上っております。これらの経験より有志僑団が「僑團聯合會」設立の起源となりました。

当聯合會は、平和理念、樂觀精神、進取の態度をもって中華民国(台湾)政府及び僑務委員会の政策を支持し、在日僑団と協調してその繁榮の促進し、僑民福祉の充實と増進及び融合を図り、各種公益及び慈善事業での協力を設立目的としています。

本会の設立において、一部の有識者より僑界の分裂、拮抗、対峙を引き起こしかねないと危惧する意見も聞かれるが、既に数々の共同活動を行ってきており、相互理解と信頼を培ってきました。我々いよいよ「新僑」は広く祖國の文化教養を受け継いでおり、「兄弟恭、長幼之儀」は深く心得ております。先達の導きを尊重し、教えを仰ぐ所存であり、分裂、対抗の念など、到底ありえません。

よってここに設立趣旨を公にし、全力で目的達成に邁進したい所存であります。全ての僑民にとって、私利、私欲を捨て、大いなる包容力、相互扶助の精神を持って僑民の為に尽くすという気概を持つことは、共通の願望であります。日本社会の常道を逸脱せず、新天地で共に輝かしい成果を上げることこそ祖國父老の期待を裏切らないことであろう。各界の賢明なる華僑達よ、どうか私達の初志にご理解を賜り、今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

在日華僑の重鎮 羅王明珠さんが 卒寿に



在日の華僑の重鎮・羅王明珠さんが7月27日、卒寿(90歳)の誕生日を迎えました。おめでとうございます。この先、まだまだお元気でいて、パーティの乾杯の音頭も永くお願いいたします。(錢妙玲社主はじめ台湾新聞社員一同)

東京崇正公会慶祝中華民国建国百年記念 台日音樂交流会開催



頭份婦女合唱団

主演:台湾頭份鎮婦女合唱団
共演:Vocal & Piano 萩原 えりこ/Vocal & Piano 山岸 しょうこ/Bass 佐藤 哲也/Drums 平沢 清二
主催:東京崇正公会/後援:行政院客家委員會・僑務委員會・台北駐日經濟文化代表処・財団法人交流協會
時間:2011年9月20日(火) 18:00受付/18:45開演
場所:文京シビックホール(小ホール)
定員:370名 全席自由(無料)
※入場券をご持参ください。
◆入場券のお問い合わせ
Tel: 03-3647-9947
Fax: 03-6315-2277

中華民國建国100年記念行事の一環として、本会は台湾より数々の賞を受賞し、今や台湾を代表する頭份婦女合唱団を迎え、客家の文化及び伝統を歌に託し、披露すると共に、日本の素晴らしいアーティストを交えて、台日音楽交流会を企画致しました。楽しい時を共に過ごせますように、皆様のご来場を心よりお待ちしております。

『いかにも台湾、やっぱり日本』第9回

「台湾漢族服? 浴衣?」 作家 亜洲奈みづほ

ゆったりとしたつくり、布地が綿である点が、台湾伝統衣装のポイント



「ところで台湾の民族衣装とは」

「チャイナドレス…?」

半分は正解であるものの、半分は誤答である。なぜだろうか。ボディコンシャスなチャイナドレスは、日本統治時代に全く着られなかったわけではないが、本格的に台湾に伝播したのは、中華の伝統の正統な継承者を誇る、中国大陸から来た外省人によって、つまり戦後のことであった。それ以前の台湾島生まれの本省人たちは、むしろ台湾漢族服飾とも呼ぶべき、ゆったりとした綿の服を用いている。たとえば首もととは、きつい立て襟で

なく、広く開かれた丸襟で、袷(あわせ)を交えて、組み紐で留める。上着は裾の広がったAライン。亜熱帯という気候が、風通しの良さが重要なポイントだ。

同じ綿でも、日本の浴衣とは全く異なる。あの浴衣、男性陣はゆったりと着てあぐらをかいていれば良いが、なかなか気づいてもらえないのだが、女性陣は密かな苦勞を要する。たとえば筆者の場合、着物や浴衣を着るときは、「予め、食いだめしておく。」帯や紐のあまりのきつさに、胃が圧迫されてしまうため、ひとたび着物姿に変われば、まともに食事を摂れなくなるためだ。ちなみに着物の正式な帯とは、助っ人を頼んで2人がかりでなければならぬほどきつく締めつけられる。そこに慣れない正座を強いられるのだから…。それでも昔の日本女性たちは、きつい帯に正座姿でかしまり、亭主関白に仕えていた。この着物、筆者には日本人の「かしこまる」氣質を象徴しているように感じられて

ならない。対する台湾漢式衣装は、「ゆったりとして大らか — このあたりにも国民性の違いが、かいま見えるようだ。」

そんな台湾服には、歴史にまつわる密かな抵抗がこめられている。初めて台湾サイズでこの地に国家を成したのは、清朝の侵攻に抵抗しながら、台湾に逃れてきた、明朝の遺臣・鄭成功である。彼の志をくみ、台湾に移住してきた人々は、少なからず「反清復明」の心情を抱いていた。それを象徴するかのように、清朝の源である満州族の文化は、台湾には根づかなかった。たとえば男子の弁髪や、旗袍(チャイナドレスの原型)、底の高い靴など。つまり当時の台湾人は、清朝の満州族、明朝

の漢民族の伝統服をまとっていたのである。さらに時はくだって現代のこと。今でも密かな葛藤は続く。「本土化(郷土化)運動だ。つまり大陸中国から来た外省人のもたらした中華文化ではない、台湾島生まれの本省人の本来の文化とは何か。それを追求する傾向が、ここ20年ほど進んできた。そのなかから生まれたのが、シルクのチャイナドレスではない、台湾漢族服飾を、現代の上着とスカート風にアレンジした衣装である。冒頭の特徴を備えた台湾服の店が、台北市の永康街近くには、幾軒も存在する。その筆頭は、「李堯(リーヤオ)」綿衣店である。『大陸中国のものとは別に、自らの伝統服飾があるはずだ』という理念から出発したブランドで、屋台から始めて成功をおさめ、今では全国に6軒の支店を持つまでに拡大しており、各界の有名人たちからも支持を得ているという。

筆者はあまりの高額さに、清水の舞台から飛び降りるつもりで、上着を1枚、買い求め、台湾系のパーティーマディアに出るさいに愛用している。あるときこれをまとって、台湾関連のテレビ番組に出演したのだが、前述の「本土化」運動について語るさいに、なぜかテレビモニターには、こともあろうに五星紅旗(大陸中国の国旗)が画面いっぱいに写しだされてしまった。まるで台湾独立を抑えこむかのように。しかし生放送であったため、まさか立ちあがってモニターを運るわけにもいかず、私は悔しさをかみしめるほかなかった。それを不慣れに思っただけで、最後にコメントターは話をそらしてくれた。「素敵なお召しものですね。」そこで私はここぞとばかりに、にっこりと強調した。これは中華人民共和国服でも、チャイナドレスでもなく、

「台湾服です!」

私のできる精一杯の抵抗であった。この微妙なニュアンスの違いは、はたして視聴者まで伝わったのだろうか…?



QQ 台湾で活躍する日本人テレビ司会者 - MATSU という文字を見るだけでお腹がすいてくる

台湾グルメを表現するにふさわしい単語の代表格「QQ(発音は、キューキュー)。」

いい言葉の響きだ。台湾のグルメ番組ではよく使われる単語。初めての台湾でテレビを見ていて、中国語の字幕でQQという文字をよく目にした。「QQというのは、どういう意味なのか?」「もちもちとした食感」という意味だと、台湾人の友人は教えてくれた。中国語の中にアルファベット?当初は神秘的だった。

台湾で初めて独特のQQ感を感じた食べ物は「珍珠奶茶」。ブラックピオカの弾力と噛みごたえに心打たれた。と同時にミルクティーのまろやかな味わい。「なんだ、このうまさ!」

珍珠奶茶が街の至るところで売られている台湾の味の魅力とは何ぞや。僕はこの時から台湾の食の虜になった。他にも肉圓の外皮、花枝羹の歯ごたえ、肉丸湯のざっくり感。QQ天国だな、ここは!

さらにQQというのは、キューキューという弾力を表す形容詞だが、文字の形もいい。Qの形をじっくりと見て欲しい。口から舌をペロリとだして「味を満喫した!」みたいなユーモラスな雰囲気か漂うではないか。マルペロッと

した感じが、癒し系でもある。まさに現代風象形文字…。さらに麵のQQ。台湾各地で食べられる麵からも、各店のこだわりが感じられる。麵も麵線、麵線粉から、板條や米苔目みたいなものまで、幅が広い。嚼んでも噛み切れないくらいにコシを出すところもあれば、噛むとあっさり噛み切れる、その分、スープのうまみはしっかり吸うよ、みたいな。もちろん、どちらが好きというのではない。どちらも良い!

台南で食べた魚麵もそのQQ感にうなった。麵の中に、かまぼこ、ちくわ系の弾力が加わる。麵に練り込んであるのだという。食感勝負の麵。

おっと、QQの話にのめり込んでいると、腹が減り、ヨダレが出てきたので、今回はこの辺で!台湾のQQはまだ奥が深い。

MATSU プロフィール
MATSU (阿松)

台湾で活躍する日本人テレビ司会者。台湾のテレビ局で放送されたグルメ番組「大口吃遍台湾」のMCを務める。これまで本島の東西南北 / 金門 / 馬祖 / 蘭嶼 / 綠島 / 小琉球等を食べ歩き、番組内で「台湾の食の風景」を伝える。同シリーズはアメリカ、カナダ、中国、日本など世界で幅広く撮影を行い、その映像を台湾の視聴者に届けている。

「NHKのど自慢」が台北にて開催 — その背後に熱い思い

10月にNHKの長寿番組「NHKのど自慢」が台北の國父記念館で開催される。「NHKのど自慢」の海外での開催は2005年のメキシコ以来、6年ぶり。今回の公演実現は、日本で暮らす台湾出身の呉正男氏(84)の熱意が実を結んだ形だ。

台湾出身の呉氏は8年ほど前、「NHKのど自慢」を台湾で開催したいとの要望を台湾日本人会から持ちかけられた。快諾した呉氏は日本での著名運動に取り組みとともに、当時の橋本NHK会長にも直接働きかけるなど実現への努力を続けてきた。

「NHKのど自慢」の台湾開催については、財団法人交流協会台北事務所の内田勝久所長(駐台大使館)からも要望があった。当時の台北駐日経済文化代表(駐日大使)許世楷氏も、当時の新聞組組長の朱文清氏とともにNHKの海老沢会長、橋本元会長に会い、希望を伝えた。

しかし、実現までには曲折もあった。そのこ

ろNHKは、番組への政治家の介入問題や予算をめぐって視聴者の厳しい目にさらされており、台北開催の予算は難しい情勢だった。2006年以降、海外での開催は見送られていた。

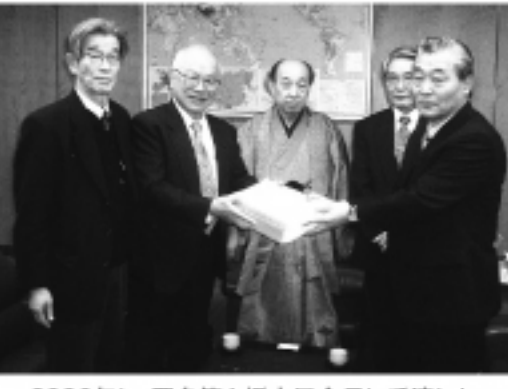
呉さんは10代のときにソ連での抑留体験を持つ。解放後は日本で生活している。籍は台湾のまま、日本に帰化はしていない。台湾と日本との太い絆をよく知っている。台湾の人が「NHKのど自慢」の台湾公演を心待ちにしている

ことも理解している。今回の台北公演での参加応募は8月1日に締め切ったが、参加希望者は1,480組、観覧希望者は5,833人になったと、「NHKのど自慢台湾実行委員会」はいう。

NHK解説員の林純一氏は、台湾開催の実現は呉正男氏によるところが大きかったと語っている。呉正男さんはすでにNHKのど自慢の台北での公演の観覧希望を申し込んでいる。積年の思いが詰まった台湾での「NHKのど自慢」会場で呉さんの喜ぶ姿が見られそうだ。

◆「NHKのど自慢 in 台湾」のホームページ <http://www.nhk.or.jp/nodojiman/taiwan/index.html>

元台北駐日経済文化代表処の新聞組組長、朱文清氏からのメール: 親日家の多い台湾で実現されて嬉しく思う。この番組を通して、日本の国民がより台湾のことを理解することを望む。



2006年に、署名簿を橋本元会長に手渡した。

「中元節」は日本の「盆」

台湾にも「お盆」がある。「中元節」と言い、亡くなったご先祖さまを思う。台湾の人にとってはとても大切な日とされ、毎月、旧暦の7月15日がその日。今年はその日は新暦で8月14日。家庭でも先祖を思う儀式が行われるが、台湾の各地でも政府主導の儀式が行われる。

特に台北から1時間あまりの時間で行ける「基隆」では、100年ほど前から、台湾で最大の中元節のお祭り「鷓鴣籠中元祭」が催されることで有名。台湾の12大まつりとしても有名な観光行事だ。まず、前触れとして旧暦7月

1日には、「あの世の門」が開いたことを祝う「開龕門」、「放水燈」、「中元普渡」、そして月末にはその門が閉じたことを象徴する「閉龕門」など、一連のイベントづくしとなる。

また、宜蘭の「頭城搶孤」も有名だ。こちらは、あの世への門が開く「開鬼門」の日に、デコレーションされた大きなやぐらの上に上がっていくつものチームが登り、その頂上にある「順風旗」を取り合う。やぐらの途中には、登るのを難しくするために油が塗ってあり、それを見る人々も熱狂する。

これらの一連の儀式は日本の「盆」に似ている。日本の「盆」はもともと仏教行事だが、台湾のそれは道教の行事と仏教の行事が一緒になったものだとされている。

台湾を憶う日本人(16)

台湾への修学旅行を変える — 朝霞高校の川島啓一さん

林雅行(映画監督)

埼玉県立朝霞高校は今年12月初めて台湾修学旅行に行く。以前は、神戸のユニバーサルスタジオや沖縄だった。1964年生まれで川島啓一さん(社会科教師)は、2009年に1年間、琉球大学に長期研修(研究テーマは開発教育)に行った。2010年の新年を101からの花火、つまり台湾でむかえた。学校に戻ったのが、台湾修学旅行初年度になる。「国際交流」を目的に行政がすすめる海外への修学旅行。台湾の場合、多くの旅行業者が組むのは、台湾の高校生との交流、プラーザー&シスターズ(グループに分かれて台湾の大学生が街を案内)、買い物(3点セット。一昨年、私は横浜の高校の修学旅行に同行する機会があったが、物見遊山の観光旅行の要素が強いと思った。川島さんは2012年12月の修学旅行担当になった時、それに「人権、平和」の要素を入れたいと考えた。そこで金瓜石と九份をコースに組み込んだ。

台北から車で1時間の九份は、風光明媚なレトロな街として人気が高い。この街が作られたのは、18世紀に発見された金鉱である。隣の金瓜石も同時期に発展した東洋一の金鉱。いずれも、1900年代後半まで操業していた。(もっぱら、戦後は銅の採掘が中心だった。)2004年の黄金博物館が完成し、歴史教育の場として整備されつつあるが、この地には巨大な産業遺産群がそのまま残っている。九份は台湾人が経営する金山、金瓜石は日本人(日本鉱業)が経営し、日本人を頂点とする階級社会だった。台湾人、大陸からの出稼ぎが苛酷な鉱山労働に従事した。戦争中にはマレー半島、シンガポールで捕虜となったイギリス兵、オーストラリア兵が強制労働させられている。金瓜石は、日本植民地時代の光と影がはっきりと投影し、歴史学習の場である。もちろん観光の点もある。川島さんは私が九份と金瓜石のドキュメンタリー映画を製作したのを知って連絡してきたのだった。川島さんは、「修学旅行の事前学習として横浜の中華学校との交流、グループに分かれて中華街で昼食、文化祭に獅子舞を招きたい。事後学習には、在日外国人とのつきあい方、先住民の問題を考えるなどにつなげて行きたい」と語る。川島さんが7月に下見に行く前に会って、私は金瓜石の小学校の校友会や黄



川島さん写真(一番右)

金博物館の学芸員を紹介した。300人の高校生が行くのである。「街をあけて歓迎します。日本の若い人が300人も来るなんて初めてだし信じられない」と金瓜石の知人は、1年以上先のことなのに大喜びしている。

さて、川島さんは今、習い事をしている。三線(さんしん)だ。琉大の研修時代に始めて、今年8月に沖縄で開かれる琉球古典音楽コンクール(琉球新報社主催)に出場する。その意欲に私も見習わなければと思う(私も三線を持っているがずっとお蔵入りになってしまっている)。一昨年前、台湾修学旅行に同行した私は、観光旅行型に不満があった。しかし、歴史、人権、平和の要素を組み込んだ朝霞高校の試みは、大きな一歩のように思う。修学旅行の流れが変わっていくかも知れない——私は楽しみにしている。

台湾から大型企業誘致団が訪日

8月29日から9月1にかけて、台湾の政府行政院建設委員会の劉憶如・主任委員率いる企業誘致のための訪問団が来日。総勢226人からなる大訪問団は、東京と大阪でそれぞれ企業誘致のセミナーを開催し、企業訪問などの活動も行う。東京でのセミナーは8月29日、帝国ホテルで開催されるが、同日15時より同ホテル内で日本企業との覚書の調印式と記者会見も行い、台湾の政府としても、日本と台湾の企業を結ぶ大きなイベントとして、この活動を位置付けている。このイベントにより、日台双方の企業の一層の提携関係の深化が期待される。

このところ世界の多くの企業が成長著しいアジアの中でも特に成長が高く、かつ安全な投資先として台湾に注目しており、多くの日本の企業も台湾に向かって動き出している。それだけではなく、台湾の政府もそれに答えるべく、IPOが台湾でよりしやすくなる環境なども整備しつつあり、法整備も進みつつある。この現状にあって、台湾の官民一体となった「日本企業誘致」の動きは、日本経済を再び活性化するための台湾の政府の行うミッションと考えることができるとすれば、これは台湾が官民一体となって、不況と東日本大震災に見舞われた日本への大きな義援の1つであると見ることもできるだろう。

今回の訪問団は台湾の政府が官民一体となって行われ、台湾の中央省庁から7省庁、地方自治体から8つの県及び市が参加。台湾の弁護士や会計事務所、企業など170団体が訪日し、日本の企業や団体など4日間

に40ヶ所を回る予定。8月29日は東京・帝国ホテルでのセミナーと調印式・記者会見が行われるが、8月31日には大阪のホテル阪急インターナショナルでもセミナーを行う。

【日本語版No.154】お詫びと訂正

【3面】行く人・来る人・チャイナエアライン 写真のキャプションで新社社長のお名前を間違っておりました。

誤:「鍾明志」 正:「鍾明志」の間違いです。

【4面】したたる肉汁!台中華歩きツアー ■土日には1,000個以上を売る人気の「肉包」

4行目 誤:「人民元」 正:「台湾元」の間違いです。

以上、謹んでお詫び申し上げここに訂正させていただきます。



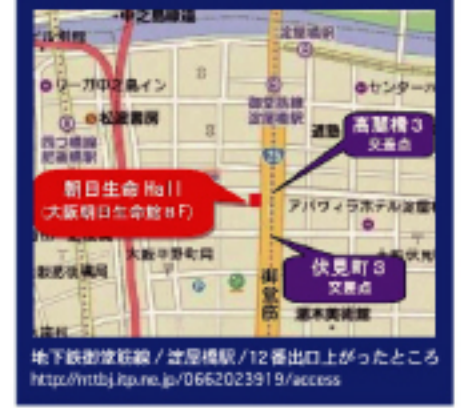
慶祝中華民國(臺灣)建國百年
in OSAKA

2011.9.18 / 13:00-20:00

協賛者:
九州台日文化交流會/ 大阪日華親善協会/ エバー航空 株式会社/ 大阪日台交流協会/ 日本中華聯合總會/ 中華民國留日名古屋華僑總會/ 中華民國留日京都華僑總會/ 中華民國留日神戸華僑總會/ 中華航空股份有限公司/ 中台寺日本大阪分院・普東禪寺/ 中華藝術院/ 日本と台湾を考える集い/ 台湾觀光協会大阪事務所/ 在日台湾商工協会/ 世界華人工商婦女企業協会日本分会/ 西日本台湾医人同業會/ 琉球台湾商工協会/ 鳥取県台湾人会/ 福岡台湾商工会議所/ 関西生命報/ 新広島中華總會/ 臺灣新聞社(筆頭)



日時	2011.9.18 / 13:00~20:00
場所	朝日生命ホール 8F (大阪市中央区高麗橋4丁目2-16)
Program	13:00~17:00 特別展示 中華民國百年 年表展/写真展 華僑收藏品展 國父孫中山先生 映像觀賞 17:30~20:00 記念式典 記念公演 演出單位: 台南-藝姿舞集 開臺四渡 渡海・渡日・渡節・渡人 迎暗藝/清揚雲飛/將巡/孔雀曼妙舞千姿/節慶
主催者	社団法人 大阪僑團聯合會 (大阪台湾同郷會、日本關西台商協會、日台商工交流會、日本吹草會、日本關西林氏宗親會、林威助選手後援會)
指導單位	台北駐日經濟文化代表處 台北駐大阪經濟文化辦事處 中華民國外交部 行政院 僑務委員會 行政院文化建設委員會 台南市政府
お問い合わせ	社団法人 大阪僑團聯合會事務局 Tel: 06-6633-3579 Fax: 06-6633-2957 Email: osakaunion@gmail.com



東日本大震災チャリティー

100 中華民國 創設一百

台日文化交流 コンサート

精彩一百

中華民國(台灣)建國100周年記念

レプラカン歌劇団(日本)
少人数とは思えない
パワフルで豪華なステージ

唐韻樂集 (台灣) 今、台湾で
一番注目の五人編成バンド

寒雲 (台灣出身石川県在住)
日台文化交流の架け橋

9/12(月) 浅草公会堂 <開場 18:00 開演 18:30>
東京都台東区浅草1-38-6 TEL.03-3844-7491

9/14(水) 石川県立音楽堂 邦楽ホール <開場 18:30 開演 19:00>
金沢市昭和町20-1 TEL.076-232-8111/0

9/16(金) 大阪市・世界館 <開場 18:00 開演 19:00>
大阪市港区波除6-5-15 TEL.06-6581-8814

主催:世界華人工商婦女企業協会 共催:山梨台湾總會・臺灣新聞 協賛:台湾觀光局
後援:台北駐日經濟文化代表處・台北駐大阪經濟文化辦事處・北陸中日新聞・石川テレビ・北陸中日新聞社会事業部・至聖親善協会
プロデュース:寒雲 お問い合わせ/ 寒雲事務所 090-9764-0555 FAX.076-278-7485

100 中華民國 創設一百

孫文と日本の友人たち

中華民國(台灣) 建國百周年記念特別展

2011年10月3日(月)→10月8日(土)
ブリーゼブリーゼ5階特設会場

〒530-0001 大阪市北区梅田2-4-9
http://www.breeze-breeze.jp

開催時間 11:00 ~ 23:00
入場料 無料
主催 台北駐大阪經濟文化弁事処
中華民國留日大阪中華總會
協力 産経新聞社